

令和元年度 データサイエンス教育担当教員会議 自己点検評価

目的

本会議の目的は、データサイエンス教育を全学的に普及させ、1名でも多くの学生にデータサイエンス教育を受けて卒業してもらうことにある。

構成メンバー

大浦洋子教授

橋爪善光准教授

荒平高章講師

取り組み内容

今年度は5月10日から週に1回程度、全26回にわたって会議を実施した。前期期間中は主にAI時代に求められる人材育成プログラムの応募について議論し、書類作成を行い応募した。また、5月、7月に行われたデータサイエンス教育コンソーシアムのワークショップへ参加し、本学のデータサイエンス教育内容についての報告及び情報交換を行った。後期期間中は本学のデータサイエンス教育をより実践的なものにするための取り組みについて議論し、福岡農業高校へ何度か訪問し高大連携を実現させた。

自己評価

昨年度カリキュラムの改訂を行い、データサイエンス教育が充実したカリキュラムになった。今年度はその教育方法について議論し、より実践的なデータサイエンス教育にするため、福岡農業高校との高大連携協定を結び、福岡農業高校と交流しながら実際の農作物育成データや加工品販売データを用いてPBL型の教育をするための下準備が出来た。データサイエンス教育を充実させたカリキュラムになった今年度の新生が徐々に専門的な教育のはじまる2年次に向けて、今後のデータサイエンス教育が整っていくことが期待できる。

改善・向上方策（将来計画）

今年度入学者に対して、データサイエンスコースを志望して入学してきた学生だけでなく、もっと広く全学的にデータサイエンスに興味を持ってもらう為の取り組みが必要だと考える。2年次以降は1年次よりも選択科目が増える。そこでデータサイエンス教育に関連した科目の履修へと学生をどのように導いていくかについて検討していく。